

平成26年度 中国ブロック家族会精神保健福祉促進研修会 島根大会

大会参加を振り返って

Aさん

今回、9月25日・26日、会場は島根県民会館で、平成26年度中国ブロック家族会精神保健福祉促進研修会 島根県大会に参加させて頂いた。メインテーマは『夢と希望を語ろう～暮らしやすい地域社会をめざして～』であった。

2014年1月4日に国連の障害者権利条約に日本が批准さて、2月19日に、発効した。障害者制度の一層の充実を求めていく新しいスタートとも位置づけられる。中国5県の精神障がい者・家族・行政関係者等が、松江市に集い、勉強を重ねた。私は「差別と偏見」という内容を分科会で発表させて頂いた。

「こころ」の大切さを訴えた。「依存型の考え方を変えて行こう」とも訴えた。多くの賛同を得たと実感している。大会は、多くの関係者の支えで天気も味方し大成功に終わった。

精神障がい者の方々、一歩一歩焦らず、地域発で「夢と希望」を叶える行動を起こそう。

我が愛する郷土を、暮らしやすい理想社会に変えて行く使命を自覚しよう。

「ほほえみの風」イベント 感想

今回の「ほほえみの風」イベントには、会場に入りきれない程の60人の方々が集まってくださいました。

最初は「亀の子」のメンバーさんによる演劇でしたが、「高次脳機能障害」についてわかりやすく、しかも簡潔に表現していて、さらに治療方針まで示していて、とても素晴らしかったとおもいます。

第二部の「宇宙ミーティング」では、濱田牧師が「自分の苦労や弱さを言って、拍手をもらうという超常現象」とおっしゃっていたとおり、自分の弱さ、生きづらさを言い合ったり、名刺に自分の自己診断病名を書いて、多くの人と交流して、お互いの弱さを認め合うことができて、仲間がたくさんいる、という気持ちになりました。

こういった交流が今後も続くことを願っています。

文芸作品

「春の陽～新しい年に～」

Sさん

暖かな陽が射しているよ。まるで痛んだ傷を癒すかのように、寂しい日もあるけれど、哀しい日もあるけれど、障害を乗り越えてゆくのはなかなか難しい。新しい年を迎えて、心が成長してゆくよ。周りの人々の支えあつての生活さ、感謝してゆくよ。これから色々な事があるんだろうなあ良い1年に成るよう心がけてゆくよ。

「緑の恋」

緑は美しい。まるで鏡のようだ。いつも私らを見ているよ。美しいから汚れもあるんだろう。緑に恋してる。まるで人を愛すかのように、苦しい事も哀しみも、包んでくれるかのような気がするよ。癒してくれる緑。澄み切った空を見上げては、生きてることに感動した日。緑は美しい。緑は癒してくれる。だから共存することの大切さを知ったよ。今思い返す緑の大切さ、酸素を提供してくれる優しさ、そんな人になりたいな。

県副支部長との意見交換会に参加して

団体名	ご意見等の内容
(社)島根県精神保健福祉会連合会	○次の3点を国、関係機関へ働きかけていただきたい ・精神障害者相談員制度の創設 他障害と同様、同等の扱いをしてほしい。 ・精神障害者の障害年金3級受給者に対する国民年金保険料の免除 障害年金3級の月額受給額48,658円に対する国民年金保険料月額15,040円は減免制度があるとはいえ、あまりにも過酷である。精神障害1～2級と同じく免除の扱いをしてほしい。 精神障害3級の人も働かれている人は少ないのではないか。 ・精神障害者に対するJR運賃の割引 他障害と同様、同等の扱いをしてほしい。
島根県精神当事者連絡会	①消費税が上がったため、より以上生活が苦しくなった ・消費税が8パーセントになり、物価が3パーセント以上上昇したが、障がい年金は逆に下がったため、より生活が苦しくなった。原付バイクを買いたい、そのお金がない。 ・精神の等級の年金が低すぎる。 ・今回支給される臨時福祉給付金について、本当に困っている人に、きちんと把握して支給して欲しい。 ②スーパーに吸収され、個人商店がなくなり、必要品の生活難民になった ・生活費の節約等のため、グループホームなどに入っているが、近場に店がなく、買い物難民になっている。 ・斐川にも生活バスが欲しい。タクシー券では足りない。 ・近場に安い店がない。 ③フードバンクの活用について フードバンクのある県や市町村について、社会福祉協議会との連携で、本当に困窮している障がい者へ、手厚いサービスをしてほしい。
島根県心身障害児(者)親の会連合会	(事前意見なし)
島根県手をつなぐ育成会	①ライフステージに応じた切れ目のない支援の仕組みづくりの実現について 障がい児・者が、各ライフステージを通して、どのような状況においても保健、医療、福祉、教育、就労支援等の分野が連携し、迅速かつ適切な一貫した支援が受けられるよう、が既存の「相談支援ファイル」や「在宅療養支援ファイル」を活用、発展させ、本人を取り巻く様々な支援機関が本人の特徴やこれまで受けてきた支援内容をIT等を活用して、いつでも、どこでも共有できる仕組みづくりの実現に向けた検討をお願いしたい。 ※医療分野では、患者の診療情報を地域の医療機関で共有する仕組みがあります。(しまね医療情報ネットワーク「まめネット」) ②福祉医療助成制度の更なる助成額の拡充及び対象者の拡大について 来年10月より福祉医療費助成制度が見直され、医療費の自己負担限度額が引き下げられることとなりましたが、他の自治体では自己負担のない自治体もあり、さらなる助成額の拡充をしていただきたい。 また、療育手帳Bは対象となっておらず、対象者の拡大も検討いただきたい。

※投稿原稿募集しております。日頃思っていることなど自由に投稿ください。